



特集 認知症を考える

超高齢者社会と言われる日本にとって、「認知症」は深刻な問題の一つです。住み慣れた自分の家で、家族や友人と自分らしく過ごしたいという願い。周囲の人が認知症について正しく理解し、見守り、支え合うことが、その願いをかなえる一歩となります。今月は認知症について考えてみましょう。

「認知症」とは老いに伴う病気の一種です。さまざまな原因で脳細胞が死んだり、働きが悪くなることで、記憶・判断力の障害などが起こり、日常生活に支障が出ている状態のことをいいます。その原因はさまざまですが、代表的なものは次の疾患です。

◆**アルツハイマー型認知症**
記憶障害（もの忘れ）から始まる場合が多く、他に、段取りが立てられない、気候に合った服が選べない、薬の管理ができないなどの症状が現れます。

◆**脳血管性認知症**
脳梗塞や脳出血、脳動脈硬化などによって、一部の神経細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れたりします。

◆**レビー小体型認知症**
幻視や筋肉のこわばり（パーキンソン症状）などを伴います。

◆**前頭側頭型認知症**
会話中に突然立ち去る、万引きをする、同じ行為を繰り返すなど性格変化と社交性の欠如が現れます。

厚生労働省が平成25年6月に発表した認知症患者の推計（平成24年時点）によると、全国の65歳以上の高齢者のうち、認知症患者数は462万人に上るとされ、これは高齢者の約7人に1人に当たります。さらに、認知症になる可能性があるとされる軽度認知障害の高齢者は400万人とされています。

65歳以上の約4人に1人が、認知症またはその予備軍という状況で、認知症は誰にでも起こりうる身近な病気と言えます。

65歳以上の4人に1人が認知症の可能性

アルツハイマー型認知症の脳の状態



脳の細胞が少しずつ死んでしまい、脳全体が縮む

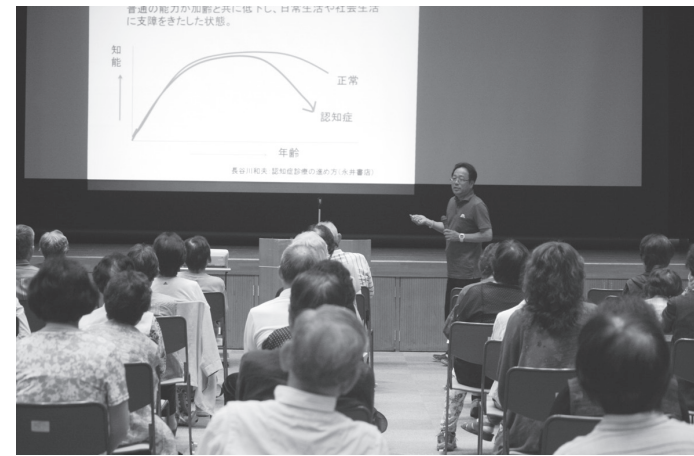
脳血管性認知症の脳の状態



血管が詰まって、一部の細胞が死んでしまう

ひかわColors

氷川町で頑張っている、町を彩る皆さんをご紹介します



認知症キャラバンメイトは、認知症のことを理解し、認知症の人や家族を見守る応援者「認知症サポーター」を養成する活動をされています。

6月19日、氷川町文化センターで行われた「認知症を知る学習会」（認知症サポーター養成講座）では、キャラバンメイトの坂田良治さんが、自身の介護体験を交え、認知症の症状、対応の方法、認知症の人・家族の心理について講話を行いました。

参加した老人クラブの皆さんは、「いつかは自分もなるかもしれないこと」と、熱心に話を聞いていました。



▲左手に着けた認知症サポーターの目印「オレンジリング」

ひかわColorsを募集します

氷川町でスポーツや文化活動、ボランティア活動などを頑張っている団体を募集します。自薦・他薦は問いません。詳しくはお問い合わせください。

問 総務課 行政係 ☎52・7111

幅広い世代のサポーターを養成
認知症キャラバンメイトでは、町内の団体やサロンで出前講座を行い、平成20年度の開始からこれまでに1019人の認知症サポーターが誕生しました。

「団体やサロンだけではなく、小中学生など世代を越えたサポーターを増やすことが今後の目標」と皆さん。

一人でも多くのサポーターが増え、認知症になっても、本人や家族が安心して暮らせる町となることを期待されます。

CONTENTS

- 2 もくじ／ひかわ Colors
- 3 特集 認知症を考える
- 6 『氷川町人権啓発作品』 募集
- 7 ご存じですか？ 児童扶養手当制度
- 8 友好町大空町との交流／健診はお済みですか？ 追加健診のお知らせ
- 9 計量器の定期検査
- 10 すくーるらいふ（竜北西部小学校）
- 12 まちのトピックス！
九州大会出場者激励会／氷川町会長旗ソフトボール大会／父の日チャリティーおやじライブ／竜北東小で緑のカーテンづくり／青年海外協力隊員が表敬訪問／ふれあい大学開講式／竜北西部小でヒマワリ花束づくり
- 14 8月カレンダー
行事予定表／休日在宅医／まちへのホットライン／休日救急歯科診療
- 16 けんこうだより
- 17 こころの健康コーナー／認知症キャラバンメイトだより
- 18 町営住宅補充入居者募集のお知らせ
有佐駅前団地入居者募集！！
- 19 ひかわスポーツクラブたより！！
- 20 立神峡里地公園だより
- 21 町民文芸
- 22 暮らしの情報
- 27 伝言板／ひとのうごき
- 28 ひかわっ子写真館／編集後記